

県難言研ニュース

岩手県難聴言語障がい教育研究会事務局（盛岡市立桜城小学校内）

〒020-0022 盛岡市大通 3-8-1

電話／FAX 019-624-0457 e-mail:jimukyoku@iwate-nangen.jp <http://www.iwate.nangen.jp>



コロナの時代におけるあいさつや返事の大切さ

岩手県難聴言語障がい教育研究会
会長 紺野好弘

毎朝、正門の前に立ち、子どもとあいさつを交わしています。先生方の丁寧な指導により、あいさつがきちんとできる子どもが増えてきています。子どもによって、元気なあいさつ、名前を読んであいさつ、一言付け加えてあいさつなど、あいさつの仕方は様々ですが、本校の子どもたちが、自分からあいさつできる子どもに育っていることをとても嬉しく思います。

あいさつは、「心と心をつなぐ窓」と言われます。人と人との間には窓があって、気もちのよいあいさつを交わすと、その開かれた窓から、相手の清々しい気もちが伝わってきます。逆に、いやいやあいさつすると、嫌な気分が相手に伝わってしまうことになりかねません。

コロナ対策によるマスク着用の弊害からか、どの学校もあいさつが低調だという話を耳にしたことがあります。今は、あいさつなんてしなくて良いという風潮もあると聞きました。マスクをかけているのに、あいさつを頑張ろうという気になれないのは当然かもしれません。しかし、そういった指導を継続していれば、今後、コロナが収束したとしても、また、あいさつを頑張るぞという指導には戻れない気がします。これからの社会において、感染症対策上、マスクは手放せないツールになっています。したがって、マスクをかけている以上、あいさつをしなくて良いという指導が平然とまかり通るのではないかと危惧しています。社会人になって、一番に指導されるのはあいさつの仕方ですが、そういった当たり前のことを指導されずに来た子どもの将来はどうなるのか、とても心配です。

コロナが蔓延する前、盛岡市内にある公立高校の入学式や卒業式に参加したことがあります。一人一人呼名された後、生徒は返事をしますが、驚いたのは、どの子どもも、返事がとても良いということです。練習を重ねた卒業式だけでなく、一発勝負の入学式での返事もしっかりとできていました。しかも「は～い」といった間延びした返事ではなく、「はいっ」といった心地よい返事です。どの中学校でも、返事の指導がしっかりとなされていることを実感しました。

「習慣は、第二の天性」と言われています。天性とは、生まれつき備わった才能や性質のことですが、毎日の繰り返しの中で身に付けた習慣というものは、その子どもの天性にまで高められていく可能性をもっています。私は、あいさつや返事を疎かにする教育は、虚しい教育だと思っています。あいさつや返事をする力は、子どもが将来、社会人として生きていく上で、間違いなく必要不可欠な力であると考えています。

コロナの時代になり、様々な教育活動が制限されていますが、難聴言語障がい教育、幼児のこたばに関する教育、LD等に関する教育は、人が人と関わり、コミュニケーションを深める上で、欠かすことのできない大切な教育であり、通級してくるどの子どもにも、しっかりとした力を身に付けさせたいと思っています。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

《令和3年度 役員・研究会理事・地区会長・地区理事について》

今年度の県難言研の活動を推進して下さる皆さんです。宜しくお願いいたします。

役員	会長	紺野 好弘 (盛岡市立桜城小 校長)	副会長	吉田 信一 (盛岡市立杜陵小 校長)
	副会長	梅野 展和 (久慈市立久喜小 校長)	副会長	佐藤 司 (陸前高田市立気仙小 教諭)
	会計監事	松葉 覚 (盛岡市立下橋中 校長)	会計監事	北田 光志 (盛岡市立土淵小中 校長)
研究会理事	校長班	今野 洋明 (盛岡市立手代森小 校長)		
	難聴班	澤口 貴志 (北上市立江釣子小 教諭)		
	幼児班	佐々木幸子 (宮古市教育委員会研究所 言語教育指導員)		
	LD班	佐藤志乃子 (花巻市立若葉小 教諭)		
地区会長	盛岡地区	佐々木 勉 (盛岡市立厨川小 校長)	岩手地区	阿部あずさ (雫石町立雫石小 校長)
	花北地区	大沼 英生 (北上市立黒沢尻東小 校長)	胆江地区	加藤 均 (奥州市立常盤小 校長)
	両磐地区	菊池 正人 (一関市立大原小 校長)	上閉伊・気仙地区	及川 靖浩 (釜石市立釜石小 校長)
	宮古地区	佐々木 優 (宮古市立千徳小 校長)	県北地区	片野 正喜 (二戸市立石切所小 校長)
地区理事	盛岡地区	藤村 隆 (盛岡市立好摩小 教諭)	岩手地区	岸本 洋行 (滝沢市立鶴飼小 教諭)
	花北地区	金野奈緒美 (北上市立黒沢尻東小 教諭)	胆江地区	村上 春枝 (奥州市立前沢小 教諭)
	両磐地区	千葉 紀江 (一関市立室根東小 教諭)	上閉伊・気仙地区	小原 明子 (釜石市立小佐野小 教諭)
	宮古地区	畠山栄美子 (岩泉町立岩泉小 教諭)	県北地区	鈴木亜紀子 (野田村立野田小 教諭)
事務局	事務局長	下村 絹子 (桜城小)		
	事務局員	中塚 貴子, 塚 秋子, 佐々木真子 (桜城小)	小野寺佳織 (厨川小)	
		和田 美音 (杜陵小)	工藤 哲哉 (青山小)	関 幸子 (手代森小)
		熊谷亜紀子 (津志田小)	佐藤久美子 (下橋中)	庄司 悦子 (厨川中)
		高橋 正 (葛巻小)	牟岐茂里雄 (大更小)	菊池 朱理 (滝沢東小)

今年度の県内の教室設置状況等

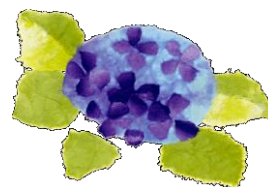
	通級指導教室担当		特別支援学級担当		巡回指導担当	合計
	小学校	中学校	小学校	中学校		
ことばの教室	86	0	0	0	5	91
きこえの教室	1	1	21	9	0	32
LD等通級指導教室	16	12	0	0	0	28
合計	103	13	21	9	5	151

(人)

幼児教室担当	29
--------	----

【令和3年度 学級・教室数の変動状況】

<p><新設></p> <p>滝沢市立滝沢第二中学校 きこえの教室</p> <p><開設></p> <p>岩手町立沼宮内小学校 きこえの教室</p> <p>花巻市立若葉小学校 きこえの教室</p>	<p><閉級・閉設></p> <p>北上市立北上中学校 きこえの教室</p> <p>奥州市立前沢中学校 きこえの教室</p> <p>一関市立藤沢小学校 きこえの教室</p>
--	--



〈研究推進について〉

1	研究主題	めざす子ども像を明らかにした、自立を促す指導・支援の在り方 ～ 活動の機会を広げる工夫 ～
2	研究内容	【1・2年次】（平成30年度・令和元年度） ・「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の見直し ・自己の課題に気付く学習活動の工夫 【3年次】（令和2・3年度） ・学習への意欲を促す評価の工夫 ・主体的に人と関わる学習活動の工夫 【4年次】（令和4年度） ・研究のまとめ ・次年度研究テーマの検討
3	研究に関わって	
	(1) 研究の内容	○ 本会の研究主題を基に各研究班・各地区研究会が研究テーマを設定し、進める。 ・子どもに対するアセスメント ・難聴・言語障がいおよび発達障がい等への指導・支援
	(2) 研究の方法	・授業研究 ・文献研究
	(3) 研究成果の発表	（校長班・難聴班・LD班・岩手地区・胆江地区・宮古地区・県北地区）

〈事業について〉

○ 第38回岩手県難聴言語障がい教育研修会

〈期 日〉 令和3年5月7日(金) 〈会 場〉 いわて県民情報交流センター「アイーナ」

〈参加者〉 132名（会員130名 一般参加2名）

※研修会資料の購入を希望される方は事務局までお問い合わせください。

○ 岩手県難聴言語障がい教育研究会結成50周年記念 第62回岩手県難聴言語障がい教育研究大会

〈期 日〉 令和4年1月7日(金) 〈会 場〉 いわて県民情報交流センター「アイーナ」

※記念事業の内容は、実行委員会で検討中です。

※研究会の名称変更は、地区の意見を聞きながら進め、記念式典で発表する予定です。

〈事務局の活動について〉

月	日	曜	内 容
4	12	月	令和3年度代議員会書面決議資料送付
5	7	金	令和3年度代議員会書面決議の結果について、学校負担金・個人会費請求書、名簿等送付
	7	金	第38回岩手県難聴言語障がい教育研修会
6	4	金	令和3年度第1回理事会書面決議資料送付

〈編集・刊行・調査について〉

- 令和3年度版 きこえ・ことば・LD等通級指導教室及び幼児教室の担当指名簿
- 会報「県難言研ニュース」年4回発行予定
- 令和3年度 きこえ・ことば・LD等・幼児教室 指導幼児児童生徒数の調査

〈お知らせ〉

- 第50回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会「山梨大会」は中止になりました。2月発行予定の全難言協機関紙「きこえとことば」の中での誌上発表となります。

第38回 岩手県難聴言語障がい教育研修会 報告

- 1 期 日 令和3年5月7日(金)
- 2 会 場 いわて県民情報交流センターアイーナ
- 3 参加人数 132名

コロナ禍の中、今年度は、全体講座をなしとし、各講座で十分なソーシャルディスタンスを保つことができるように座席等にも配慮をしながら研修会を開催することができました。

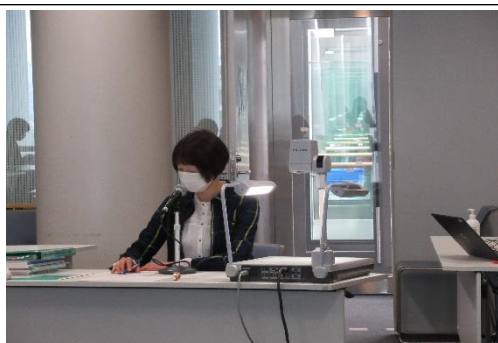
午前中は、8つの講座に分かれて研修をしました。



講座A1 発音についての指導・支援Ⅰ
八幡平市立大更小 指導教諭 牟岐茂里雄 先生



講座B1 難聴についての指導・支援Ⅰ
岩手県立盛岡聴覚支援学校 教諭 高橋早那英 先生



講座C 発達の特徴や関わりについての指導支援
盛岡市立青山小 教諭 門屋 陽子 先生



講座E 吃音についての指導・支援
花巻市立花巻小 教諭 吉池稚重子 先生



講座A2 発音についての指導・支援Ⅱ
陸前高田市立気仙小 教諭 佐藤 司 先生



講座B2 難聴についての指導・支援Ⅱ
北上市立江釣子小 教諭 澤口 貴志 先生



講座 D LD等通級指導教室の
指導・支援について
盛岡市立厨川小 教諭 小野寺佳織 先生
盛岡市立厨川中 教諭 庄司 悦子 先生

講座 F 口唇・口蓋裂についての
指導・支援
盛岡市立好摩小 教諭 種市 明生 先生
滝沢市立鶴飼小 教諭 岸本 洋行 先生



午後の協議は、言語通級指導教室担当は課題別で、難聴班、幼児班、LD班に分かれて行われました。現状報告、指導や支援の仕方、今後の運営方針等について、意見交流が活発に行われました。

<教室経営1>

巡回指導時の他校担任との連携、ことばの教室の始業式・終業式について、担当者の加配という立場について、指導時間のない時間に補教やサポートに入るため、授業の準備や教室事務ができないなど、各教室の運営上で困っている点を中心に話し合いました。

<教室経営2>

巡回指導・タクシー通級、空き時間と見られがちな時間割の形態、コロナ対策を中心に話が進められました。その他にタブレットは指導に有効なので、ことばの担当者にも欲しいという意見が出ました。



<構音障がい1>

はじめ・終わりの式について、退級の見極めと習熟のさせ方について、自己批正力を高める方法等具体的な指導について、交流しました。また、コロナ禍での親の会の運営と会費の使い方についても話題になりました。

<構音障がい2>

イ列音の指導について、母音指導やうがいを丁寧に行うことが大切であることを確認することができました。評価についても話題となり、面談や報告書の様式について各教室の様子を交流しました。

<吃音・緘黙1>

指導の仕方、保護者・児童への寄り添い方について、教室の現状を織り交ぜながら、話し合いが行われました。中学校を見据えての指導や引き継ぎについても話題になりました。

<吃音・緘黙2>

通級指導としてどんなことをしてきたのか、具体的な内容が多く出されました。「遊び、創作活動等の活動を通して、気持ちを出すことができるようにしてきた」という意見が多くありました。また、担任や保護者とどんな成長を願うのかを共通理解し、みんなで関わるのが大切というまとめになりました。

<口蓋裂>

指導内容（実際の指導・家庭での取り組み・成長に伴う指導）について、「どこを見るのか？」という視点に絞り、ビデオ視聴を取り入れて、より具体的な研修を行いました。

<吃音・緘黙3>

通級判断・中学校へ向けての連携・実態把握と指導について、話し合いが行われました。通級判断については、保護者や本人からのニーズがあった方が良いでしょう。連携については、本人と保護者と相談をしながら、どのように担任に伝えるのかを検討する。指導については、その子によって異なるため、情報を集め、対応することが大切であると確認しました。また、腹式呼吸についても話題になりました。

<言語発達遅滞1>

子どもの現状・実態に合わせ指導支援をすること。グレーゾーンの子どものために、通常学級担任にも具体的な支援について学んでもらう方法について意見が出されました。校長先生にも通級指導教室のことを理解してもらうことが大事だということも話題になりました。

<言語発達遅滞2>

言語理解や言語指導、学力に課題のある子どもへの指導について、協議しました。ひらがなの読み書きが難しい児童は、簡単な文字から始め、言葉と関連づける、言葉探し、ビジョントレーニングを活用する。音読が困難な場合は、読むところに目を向けることができるようにする教具の作製等、具体的な方法を紹介しました。

<言語発達遅滞3>

同じ学級からたくさんの人数で通級する場合、重複障がい（LD、発達）、発音指導、吃音・緘黙についてなど、様々な事例の具体的な対応や指導法について協議しました。

<難聴班>

今年度の難聴班の運営の見通し、8月6日に予定されている研修会内容の確認をしました。その後、各教室の様子について交流し、外国語の取組、中学校への引継ぎ、医療機関との関わり方、T2としてどう入るか、ロジャー補聴器を使いたがらない等、子どもへの指導で気になっていることについて、話し合いました。



<幼児班>

教室の様子交流の中で、吃音への対応について悩む声が寄せられました。幼児班独自の研修会が少ないため、困り感や幼児の指導について共有する機会が欲しいという意見が出ました。今後どのように運営していけばよいか検討することになりました。

<LD班>

新旧地区理事紹介後、今年度の研究について確認しました。また、各地区の現状や今年度の研究に対する取組について報告・意見交換を行いました。

